

平成12年8月21日
原子力安全対策課
(12-48)
<22時30分記録>

高浜発電所2号機の出力降下について

このことについて、関西電力株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

高浜発電所2号機（加圧水型軽水炉；定格出力82.6万kW）は、定格出力で運転中であるが、本日17時30分頃から蒸気発生器に2次冷却水を供給している給水系（2系統）のうち、A系統にある第6高圧給水加熱器のドレン（凝縮水）流量*の増加が認められたため監視強化を行ってきたが、2次系の各種パラメータなどから、高圧給水加熱器の伝熱管漏えいの可能性がある判断し、本日21時40分から出力降下を開始し、23時頃に電気出力を約75%として点検・調査を実施することとした。

なお、今回の事象による環境への放射能の影響はない。

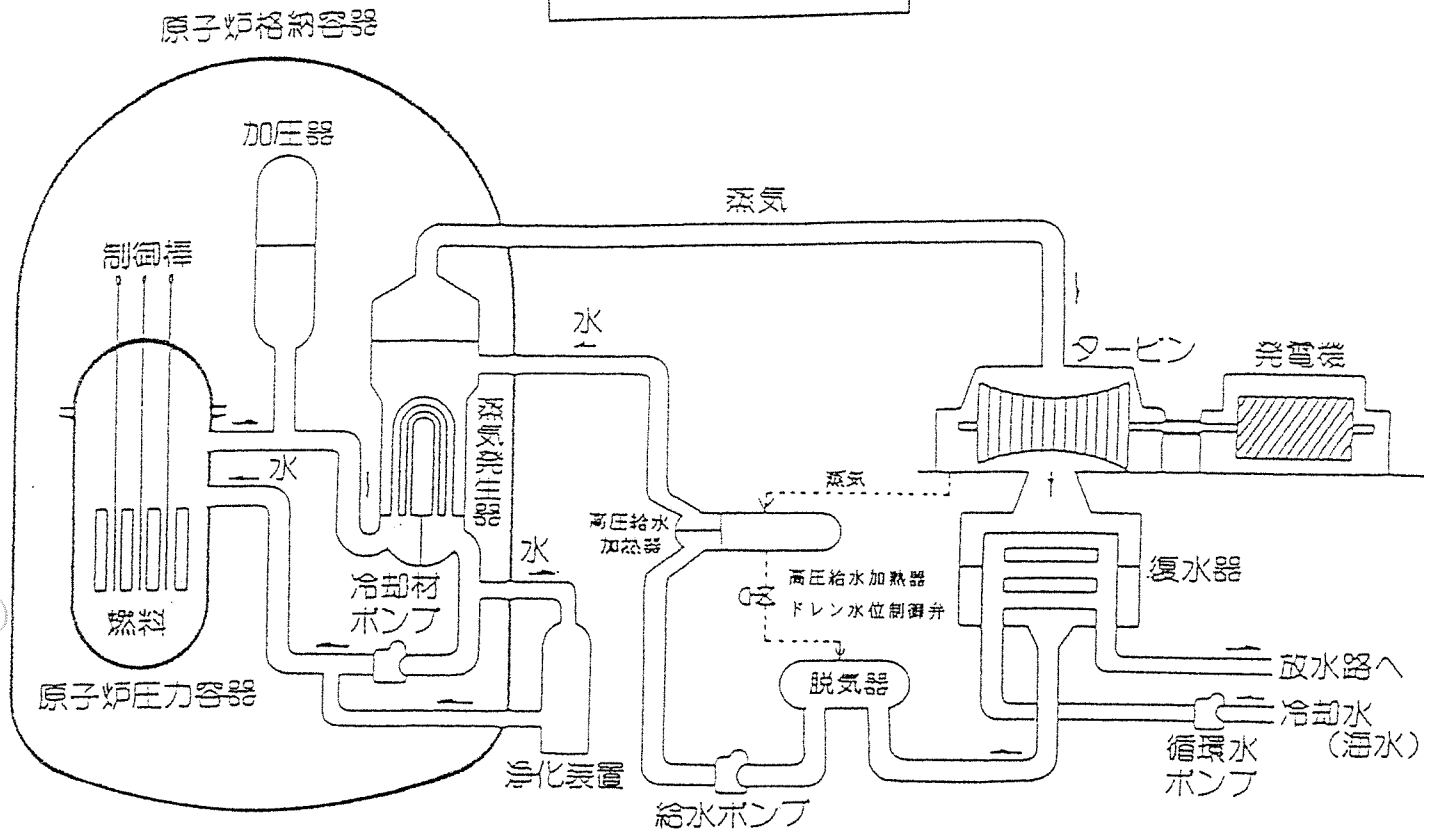
*高圧給水加熱器では、伝熱管内を2次冷却水（給水）が流れ、高圧タービンの排気蒸気を使ってこの給水を加熱している。加熱後の蒸気はドレン水（凝縮水）となり、給水系統に戻る。

高圧給水加熱器の伝熱管で漏えいが発生すると、伝熱管内を流れる給水（放射性物質を含まない）が、凝縮水側に漏れこむため、凝縮水流量が増加する。

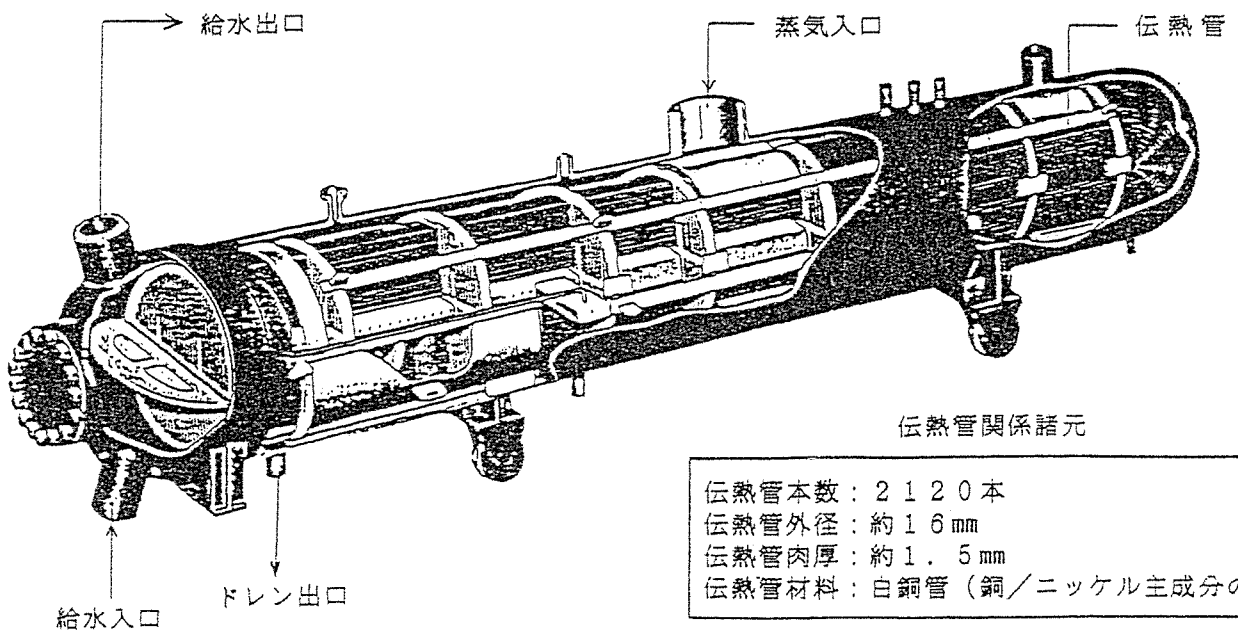
（通商産業省によるINESの暫定評価尺度）

基準1	基準2	基準3	評価レベル
—	—	0—	0—

系統概要図



高圧給水加熱器概要図



伝熱管関係諸元

伝熱管本数：2120本
 伝熱管外径：約16mm
 伝熱管肉厚：約1.5mm
 伝熱管材料：白銅管（銅／ニッケル主成分の合金）